

保護者 様

あおぞらキンダーガーデン

あおぞらでは、認定こども園の施行規則に基づき、2023年度の自己評価を行いましたので下記の通りご報告いたします。

学校法人藤枝スズキ学園 認定こども園あおぞらキンダーガーデン 2023年度 自己評価書

あおぞらキンダーガーデンの教育目標及び本年度の重点目標

◎ 教育目標…心身ともに健康な子
○ 子ども像 *自分を大切にし、仲間とともに成長する子ども
*まわりのものに深い関心を寄せ、感動できる子ども
*じょうぶな体をもつ子ども
*自分の発見や考えを豊かに表現できる子ども
これらの子ども像を達成するために、本年度は昨年度に引き続き「幼児理解と育ちの記録・あそびの考察・環境」を研究テーマとし、保育の充実・向上を図ることを重点目標とします。

(1) 教育 評価項目の及び取組状況 (A=よくできた B=ふつう C=できなかった)

「日常の保育活動」を教育課程の充実に結びつけた記録用紙「ちょこっと記録」を月1回個人で記入し振り返るとともに、日常の会議の中で「ちょこっと研修」を開催し、理論と実践を結び付ける事を大事にしてきました。結果、保育実践の向上、保育力の向上の継続。さらに、2023年度は、法人全体で保育研究会を立ち上げ、教育課程の見直しを図っています。これらを継続していくことで、子ども観・保育観が豊かになり『子どもの最善の利益』を求める保育の充実・継承をはかっています。		
評価項目	自己評価	取組状況
①幼児理解を深めるための視点の学習	A	自己学習力を上げ、日常の会議の中で実践を振り返ることで、幼児の姿が立ち上がり、その意味を学び幼児理解・子ども観・保育観が深まりました。
②乳幼児の発達を学んで幼児保育を充実する研究	A	日常の短い時間、総括、方針、法人全体学習会などの場面で学習を進めてきました。その中で「今」を充実する「楽しかった」経験が子どもの発達の原動力となること、次の発達の土台を創っていく事を学んでいます。
③保育環境研究	B	学習・保育実践の中で「環境」の大切さを深め、室内外・園庭の環境整備を考える視点の充実ができました。
④具体的な保育内容を考える	A	職員会議、総括、方針会議、給食会議、環境についての学びは、保育の多様な視点、保育内容のあり方を深めることができました。
⑤教育課程を見直す	A	毎月の実践検討会で見いだされたことを教育課程に照らし合わせ、見直しを行い、日常保育と教育課程のつながりを学びました。
⑥保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	A	クラス便りを子どものつぶやきを中心に、保育の様子、子どもの様子、教師の考えが伝わるよう、随時発行しました。懇談会、行事等の開催時期を見直し、その際には園長や担任が保護者に分かりやすい言葉で子ども理解について伝えることに心掛けました。家庭訪問・個別面談を実施しました。連絡帳の活用にも力を入れました。送迎時などに積極的に会話をすることを心掛けました。園便りを定期的に発行しました。ホームページは随時更新しました。

(2) 運営

評価項目	自己評価	取組状況
①教職員体制の改善、向上	A	保育は、人格の営みであり、保育者の専門性に「子どもの権利」について敏感に感じ取る力が必要です。園では、保育者が「人権について」の学びを土台にしている歴史があり、今年度も確認しています。そして正規職員・パート職員・職種に関係なく“子どもの最善の利益”をもとめる教職員集団をめざして学習・運営をすすめています。特定非営利活動法人なのはなどの教職員研修を行いました。
②保育環境の改善、向上	A	保育実践実現のための室内外、設備の補充や安全点検を進めてきました。園庭や室内の環境づくりを随時整えてきました。
③運営全体について	A	2023年11月6日に実施した静岡市の監査において、特に改善事項はありませんでした。

(3) 本年度の重点目標の総合的な評価結果 (A=よくできた B=ふつう C=できなかった)

A	幼児理解は、保育実践のスタートです。理解には「理論的と実践的」理解があり、各種研究会と日常の記録、実践の融合が必要であり、「学習・研究」の時間を創ることが大切です。あおぞらキンダーガーデンでは、年間を通じて学びの時間を大切にしていることで「子どもの最善の利益」を求める保育の充実をはかっています。そして、保育実践や運営上の疑問や悩みは、言葉にしてみんなで保育実践を進める保育者集団を目指しています。
---	---

(4) 今後取り組むべき課題

幼児期は、環境による保育と言われるように、豊かな保育を創り出すには、環境づくりが常に求められています。今後とも園外での環境を充実するとともに園内の環境づくりを充実していきたいと考えています。そして「保育の質は、保育者集団の質」ともいわれるようにこれからも子どもを真ん中にして。保育の質の向上のため、努力を進めていきます。
--

「2023年度 あおぞらキンダーガーデンに関するアンケート」の報告

実施した標記のアンケート結果について下記のようにご報告いたします。今後の保育活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。(配布枚数85枚 回収枚数71枚 回収率83.5%)

	はい	どちらでもない	いいえ
ア お子さんは保育園に通うのを楽しみにしていますか	66人(92.9%)	2人(2.8%)	3人(4.2%)
イ お子さんが「成長したなあ」と感じることはありませんか	70人(98.5%)	0人	1人(1.4%)
ウ お子さんは基本的な生活習慣が身に付いたと思いますか	69人(97.1%)	0人	2人(2.8%)
エ 保育園や職員に子育ての悩みや疑問を相談しやすいですか	65人(91.5%)	1人(1.4%)	5人(7.0%)
オ 連絡帳、おたより、懇談会、相談などを通して保育やお子さんの園生活は分かりやすいですか	68人(95.7%)	0人	3人(4.2%)

3 今後取り組むべき課題

アについて	子ども一人一人の状況を深くつかみ、課題を見つけ、遊びの充実を深め、楽しく登園できるように家庭との連絡を密にしていく
イ、ウ、エ、オについて	現在の子どもの「ありのまま」の姿に共感し、子どもを真ん中に、家庭保育と集団保育の違いを大事にして『子どもの最善の利益』を求めて、子育てのパートナーになる様に、保育を進めていく

4 その他

子どもを取り巻く状況が厳しくなる中、親も子育てを通して親になる喜びを感じる事が難しい時代となっています。園では、子どもと親の理解を深め、より専門的な保育の知識や方法が必要となっています。親理解・親支援があつて子どもの育つ環境が豊かになることを考え、来年度も、あおぞらの歴史の中で大切にしてきた実践の中核を確認し「実践を科学する」視点で理論と実践を深め、保育の質を高めていきます。
